



「第3回 経営管理研究会」を開催～7法人が資源点検結果を発表～



《発表法人・発表者》		
(農) ファームつるの里		大中代表理事
(農) シャイニング名坪		佃代表理事
(農) ウエスト・いかち		藤本代表理事
(農) 切畑ファーム		原田代表理事
(農) 向山	山口統括本部	生駒担当
(農) ねたろうファーム		
	宇部統括本部	原田課長
(農) 徳坂		松田理事

2月14日(金)に、JAビルで、第3回経営管理研究会を開催し資源点検法人等25名が出席しました。本年度の経営管理研究会では、「我が法人の総点検」をテーマとして、各協議会単位で「将来を見据えた法人内部の資源点検」の実施を積極的にすすめてきました。

当日は、点検法人から点検結果について、①時期、②メンバー、③点検結果及び内容、④点検の結果判明した課題や問題点、⑤課題や問題点の対策について発表が行われました。

参加者やコメンテーターから、若い従業員の雇用、就業環境整備、従業員の育成方法、雇用を目指した経営拡充、法人連合体の立ち上げ、野菜の導入、定年退職者の掘り起こし等について積極的に意見・質問が出され、活発に意見交換がなされました。

総合討議では、コメンテーターを務めた県農林総合技術センターの野村主幹、高橋研究員、JA山口中央会の厚東次長から、①点検方法も改良を加え、ぜひ全法人で取り組んで欲しい、②経営状況の分析と合わせて実施するとより効果的、③課題解決の目標を単なるスローガンにしないためにも、課題解決の優先順位を決定し具体的な課題解決の流れ(中期計画)を作成して欲しい等のコメントをいただきました。

「JA山口県と地域法人協議会役員(下関、山口)との意見交換会」を開催

1月21日(火)、「JA山口県と山口県農協下関集落営農法人協議会との意見交換会」をJA山口県下関統括本部で開催しました。意見交換会には、JA山口県から金子組合長他役職員8名及び山口県農協下関集落営農法人連携協議会役員7名が出席しました。

JA山口県の方針説明後、4つのテーマ(①コスト低減、②農産物の生産と販売、③共同施設(集出荷場、共同乾燥施設)、④農協組織)について意見交換しました。

金子組合長は、「組合員と本音で対話できて、1つになれると実感した。継続していきたい」、川岡会長は、活発に意見がでて良かった。今後の活動につづけて行きたい」と話されました。



2月26日(水)、「JA山口県と山口中央地域担い手組織連絡協議会との意見交換会」をJA山口県山口統括本部で開催しました。JA山口県から金子組合長他役職員25名、山口中央地域担い手組織連絡協議会役員・会員11名が出席しました。

初めにJA山口県金子組合長は、「1県1JAの最終的な目標は、自己改革の実践だと思っている。特に、農家の皆さんの所得拡大、生産拡大については、早期に期待に応えられるようにしたい。抜本的な改革には、JA

と農家との信頼関係が不可欠。基本的な方向性を定めて、生産部会等を通して農家、組合員に提案・協議していきたい。」とあいさつされました。

JA山口県方針説明の後、意見交換が行われ、山口中央連絡協議会から、①生産資材、②組織体制、③農機具等、④利用施設、⑤各種農業振興関係事業施策等について、意見・要望等がだされ、JA山口県役職員と意見交換を行いました。

閉会に当たり、山口統括本部山下本部長は、「JA山口県と地域協との意見交換を通じて法人の思い・課題等が確認でき、大変有意義であった。課題等を早い時期に解決できるよう、本所・統括本部が全力を尽くしたい。」と話されました。

令和元年度「決算・総会研修会」を開催

12月17日(火)、山口南総合センターにおいて、令和元年度決算・総会研修会を開催しました。会員法人、JA担当者や関係機関など、109名が受講しました。

研修会では、税理士法人維新の久保税理士から集落営農法人の決算処理・税務・確定申告、その他税務処理、税法改正等について説明がありました。

つづいて、(株)HACCP総合研究所の田原代表が「JGAPの2つの目的について」講演しました。



「財務諸表の読み方・活かし方研修会(法人役員向け)」を開催

1月30日(木)、JAビルにおいて、「財務諸表の読み方・活かし方研修会」を開催し会員法人56名、関係機関等15名が出席しました。

本協議会は、法人の経営状況を改善し更なる成長を実現させるためには、財務諸表を定量的に分析して将来に向けた戦術を検討するスキルは法人経営者にとって、益々重要になっていることから、財務諸表の構造と意味



を理解し主要な分析指標を活用して経営課題とその解決策を導き出す実践的な手法について、習得していただくことを目的に階層別研修会に位置づけて開催しました。研修会では、JA山口中央会農政対策部吉武次長から、「農事組合法人における理事の責任と責務」、「財務諸表の読み方・活かし方」をテーマにご講演いただきました。

講演で、吉武次長は、①「理事の役割として、組合員のリーダーとしての役割、経営者としての役割、地域リーダーとしての3つの役割があること」、②理事の義務と責任の関係について、③「貸借対照表、損益計算書の構造・見るべきポイント、安全性分析等」について、定款や具体的事例を示しながら分かりやすく説明されました。

「第2回 SNS 活用研修会」を開催

1月30日（木）、JAビルにおいて、令和元年度第2回 SNS 研修会を開催し会員法人、JA 担当者、関係機関等 26 名が出席しました。

本協議会では、SNS は情報発信やマーケティングでの活用事例が農業の現場でも増加しており、集落営農法人にも SNS の積極的な活用が期待されることから、SNS に対する理解を深めていただくため研修会を開催しました。

研修会では、水岡広報企画室の水岡氏から、①講義「SNS に潜むリスクとトラブルの予防策」、②ワークショップ（実習：フェイスブック作成等）について説明や実技指導を受けました。

水岡氏は、「SNS は、広く使われるようになった便利な「情報発信ツール」であり、拡散能力は、テレビ、新聞、雑誌と比べても非常に高く活用次第では有効な広報になる。しかし、ネガティブな情報も同様に拡散してしまうおそれがある」と強調されました。



現地で「初心者向け機械操作・メンテナンス研修会」を開催



2月3日（月）、4日（火）、6日（木）に、トラクター、コンバイン、草刈機の適切で安全な使用方法やメンテナンスについて学ぶオペレーター研修会を県内3会場で開催しました。

講師は県農林総合技術センターの森岡主査が務め、3日、4日は、山口市の（農）二島西に各々44名・32名、6日は、下関市の（農）吉見ファームに9名が参加しました。

森岡主査から、「農作業中の死亡事故は県内で毎年8件程度発生していること、他産業は年々減少している一方、農作業中の死亡事故は、全国的

にも減少していないこと等の事故の現状」及び、「トラクター、コンバイン、草刈機の事故防止と安全な使い方・日常の簡易メンテナンス」について説明いただきました。

また、トラクターのブレーキの連結解除確認、作業機の取り替え、日常の簡易メンテナンス（ギャケース、エアクリーナー、グリスアップ等）の実施方法について実習しました。

今回の研修会には、28 法人から 85 名の出席者があり、農業機械の適切で安全な使用とメンテナンスについて会員法人の関心が非常に大きいことがうかがえました。参加者から、「基本操作の確認に加え、今まで気がつかなかった新たなことも勉強できた。」という意見も出され効果的な研修会となりました。

「JA しまね出雲集落営農組織連絡協議会と百姓練磨の会の意見交換会」を開催

12月5日（木）、JAしまね出雲集落営農組織連絡協議会の小林会長他 22 名の皆さんが百姓練磨の会と「若手就業者の育成と今後の法人経営の考え方」をテーマに意見交換会を行うため来農されました。

本協議会から、原田会長、仁多百姓練磨の会リーダーが出席しました。

最初に、仁多リーダーが「農業法人はこれからどう在るべきか」と題して、事例発表しました。地域の農地の維持・管理を目指す法人から地域活性化と併せ収益性向上を目指す法人へのステップアップが重要、法人就業した若者がモチベーションを高めて生き生きとやりがいを持って活躍できる環境づくりが重要と強調しました。

発表を踏まえ、雇用導入に向けた周年就労対策、収益向上対策、就労環境整備について意見交換しました。



百姓練磨の会メンバーが農業大学校生に「法人就業」について先輩の体験談を事例発表

1月14日（火）、JA山口県は、農業大学校講堂において、JA山口県が実施している学生就農応援事業説明会を開催しました。この中で、先輩から後輩に向けて、法人就農についてアドバイスする企画が設けられ、平成27年に（農）川西に就農した久保伶名さんが、「農業法人に就農した理由、法人で従事している仕事、今後の夢等」について体験談を通じて農大生に事例発表を行いました。農業大学校生は法人就業を希望する学生が就農者の80%程度と多いことから、在校生は熱心に耳を傾けていました。

